

令和2年度  
(令和元年度事業)

美深町まち・ひと・しごと創生総合戦略

評 価 報 告 書

令和2年度まち・ひと・しごと創生総合戦略評価（令和元年度事業）について、次のとおり報告する。

令和2年8月31日

美深町まち・ひと・しごと創生推進会議 会長 齊藤 宏 行



## 1 評価の対象

まち・ひと・しごと創生総合戦略に搭載された具体的な施策のうち37の主な事業について評価した。

## 2 評価の方法

まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標1～4に分類される37の主な事務事業について、評価調書及び補足説明によって、3部会において担当する施策を4段階で評価した。

※1 美深町まち・ひと・しごと創生推進会議 会長 齊藤 宏行、副会長 佐竹 仁 (◎は部会長 ○は副部会長)						
福祉教育部会	◎佐竹 仁	○堀 博明	森元 康好	花井あゆみ	工藤 裕美	堂前 宏之
産業経済部会	◎斎藤 雄太	○中西 忠幸	菅野 勝義	向井 朋博	久須田麻子	
環境行財政部会	◎佐藤 智三	○荒木 久恵	齊藤 宏行	木全 哲也	遠藤 奈美江	

※2 美深町まち・ひと・しごと創生推進会議本部						
福祉教育部会	◎望月 清貴	○後藤 裕幸	田澤 満			
産業経済部会	◎杉本 力	○山崎 義典	政岡 英司			
環境行財政部会	◎玉置 一広	○渡辺美由紀	川端 秀司	西村 直志		

※3 三部会の評価施策数	
福祉教育部会	9事務事業
産業経済部会	15事務事業
環境行財政部会	13事務事業

※4 四段階評価	
A評価 期待どおりの成果が得られた	B評価 一応の成果が見られた
C評価 あまり効果が見られない	D評価 全く成果が見られない

## 3 評価の経過

美深町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱に基づき、次のとおり評価を実施した。

- ・ 8月12日 第1回まち・ひと・しごと創生推進会議
- ・ 8月12日 第1回各部会開催
- ・ 8月19日 第2回福祉教育部会
- ・ 8月31日 第2回まち・ひと・しごと創生推進会議・各部会開催

## 4 評価の結果

37事業のうち、A評価が13事業 [35.1%]、B評価が23事業 [62.2%]、C評価が1事業 [2.7%] であり、A・B評価が全体の97.3%となっている（評価がAに上がった事業は1事業）。

まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施による目標達成（事業による効果・検証）には、一定程度の期間が必要であり、人口ビジョン、基本目標、KPI達成に向けて今後も継続して取り組みを進めていかなければならない。

基本目標ごとに区分した評価結果の概要については、以下のとおり。

基本目標 1	<p>国の基本目標① 地方における安定した雇用を創出する</p> <p><b>まちの特性を活かした産業振興と魅力ある雇用の場の確保・創出、拡大</b></p>
<p>(1) 職業として選択できる魅力ある農業の実現</p> <p>● <b>農業担い手の育成・確保</b></p> <p>担い手の育成・確保対策の推進は、地域担い手育成総合支援協議会を中心に展開しており、各地域の新規就農者の受入れ組織とも連携して進めている。引き続き、関係機関で連携し、地域における新規就農者の受入れ体制づくりを進めていく必要がある。新規参入者の受入れ組織は各地域で組織されており、研修から就農、就農後の相談まで責任を持って指導し、地域で育てる体制が整ってきた。今後も、新規就農者受入体制の拡充を図るとともに、新規就農者・後継者が安心して就農できるよう支援内容について検討していくとともに、新たな組織の設立について、地域での協議を促し、新規就農・経営継承を図っていく必要がある。新規就農者の経営状況については、地域担い手育成総合支援協議会において定期的に状況を確認し、指導されており、今後も継続して実施していくことが必要と考える。</p> <p>農業体験実習生の受入れについては、受入れ農家の協力が不可欠であることから、引き続き、各地域・各農家に協力を求めていく必要がある。</p> <p>農業支援塾についても、内容を拡充し、更に良いものにするため、関係機関・受講者と協議していく必要がある。</p> <p>● <b>付加価値向上に向けた6次産業化の推進</b></p> <p>道内外へのPR活動やイベントへの参加などを通じて、特産品の販路拡大に対する意識は高まっており、販路拡大に踏み出すための足がかりになっている。また、販路拡大事業はすぐに結果にあらわれるものではないことから、継続した事業展開が重要であり、検証を行いながら着実に継続実施する必要がある。</p> <p>農業振興センターでは、加工品開発や6次産業化を目指す町内生産者・事業所等への支援と連携協力を行っており、一部営業許可の取得や高付加価値農産物として冬期間における無加温野菜の生産・販売を支援するなど取組みは着実に進んでいる。</p> <p>(2) 魅力ある雇用環境を整備する</p> <p>● <b>チョウザメ養殖産業の振興</b></p> <p>平成29年度から本格的に施設整備に着手し、本年度は内閣府の地方創生推進交付金や過疎債などを活用して施設を整備している。雇用拡大、地域産業活性化など、KPI達成のためには、相当の期間を要するが、目標達成に向けて着実に取り組んでいく必要がある。ハード面だけでなく、飼育技術の確立や販売戦略の構築、人材の確保などが課題であるが、まずは、ふ化技術の確立による生産数の確保を目</p>	

指し、北海道大学や道立総合研究機構などの技術支援を受けながら取組みを進める必要がある。

#### ●建設産業等活性化の促進

平成26年度に「商工業担い手支援条例」が施行され、積極的に活用されてきており、新規開業や雇用創出により直接的経済効果や関連する業界への経済波及効果が大きく、有効性が高い事業である。平成30年度には、新規開業のリスクに不安をもつ事業者支援するチャレンジ事業制度を新たに設け、制度を拡充したが実績は0件であった。また、事業承継など後継者対策に対応するため、令和元年度からは、地域おこし協力隊を商工会に配置して取り組んでいる。

#### ●保健・医療・介護・福祉の人材確保

保健師、看護師、准看護師の人材確保は緊急的課題であり、修学支援によって地元医療機関等への雇用確保に結びつけるとともに、就業時の支援として一時金制度を創設することで成果が現れている。医療や介護の人材は、全国・全道的に見ても都市に集中する傾向にあるため、制度を継続する必要がある。

恩根内地域においては、町内医療機関まで一定の時間を要することから、地域の安心した暮らしのため診療所は必要である。また、へき地医療を担う町内医療機関の存続を支援するとともに、開業医誘致に向けた取組みも進められたい。

広域医療圏域を構成する市町村において、広域第2次救急医療事業の円滑な推進を図るため、協定に基づく費用負担も継続する必要がある。

### (3)創業支援、新産業の振興

#### ●商工業担い手の支援と地場産業創出

商工業担い手支援条例による補助金を活用し、令和元年度は1件の新規開業実績があった。新規開業、経営承継、担い手の育成・確保をはじめ、人材育成事業を通じて、従業員確保や技術向上につながっている。

起業家育成支援事業は、新たな起業家による事業展開が図られることにより、町内経済の活性化、幅広い分野での起業に期待をするところであるが、令和元年度は本事業の活用はなかったが、起業に向けた研修機会の確保や商品開発等に関する情報収集など、必要な支援を行うことにより、積極的な事業展開が期待できることから、引き続き事業を継続され、周知方法の工夫や活用要件の緩和なども検討しながら推進されたい。

#### ●地域活動の活性化促進

令和元年度は、特産品開発につながる取組みはなかったが、民間の活動による地域の活力を助長する支援として地域活性化促進事業は2件の活用があった。様々な分野において町民の自主的な活動が実施され、規模は小さいものもあるが町の活性化につながっている。

今後も、町民の積極的な活動により、地域の活性化や、特産品の開発、新たなイベントの創出などが実施されるようPRを図りながら事業を推進されたい。

### (4)卸売・小売業、建設業の活性化

#### ●商工業活動の支援

商工会が実施している商工業者への経営改善指導や地域振興事業、商店街活性化事業などは、美深町の商工業の振興と経営安定、市街地の環境整備を図るために重要で

あり、事業に要する支援は必要である。

特に即効性のあるプレミアム商品券発行事業への支援は消費者と商工業者両者の支援につながっている。また、子育て支援としてプレミアム付商品券の上乗せを行うことにより若い世代における町内での消費行動の喚起を図ることができた。

また、事業承継など後継者対策に対応するため、令和元年度から地域おこし協力隊を商工会に配置している。

#### ●林産業活性化推進事業

上川管内広域で取り組んでいる北海道立林業大学校上川地域開校支援協議会に加盟し、人材育成機関の誘致に向けた取組みを実施するなど、林業担い手育成支援の取組みは着実に進んでいる。

林業経営強化に向けた各種事業への支援を引き続き行い、老朽化した工場施設や林業機械等の更新により生産性の向上と収益の増大を図るため、各事業体の経営の長期方針をベースとした町内林産業全体の方向性について議論し、計画的な事業実施と必要な支援を推進されたい。

木質バイオマスの利用については、びふか温泉木質バイオマスボイラーの効率的かつ安定した運転管理が継続されるよう、木質チップの価格も含めた安定供給に努められたい。

数値目標	基準値	目標値
町内企業就労者数	1, 677人 【2012年業種別従業者数】	1, 727人
<b>R元 数値目標達成状況</b>	<b>1, 508人</b>	<b>達成率 87.3%</b>

## (1) 移住定住を促進する

## ●移住・定住対策の促進

移住対策は、地方創生、地域戦略の重点施策であり、27年度に体験住宅を一新するとともに、28年度に移住体験住宅を建設したことにより、都市居住者の移住ニーズに対応した情報発信と受入れ体制が整い、現時点においては夏季期間を中心に利用者が増えているとともに、利用者の少なかった冬期間の移住体験についても、令和元年度は2件の利用があり順調に事業が進められている。

今後、体験から本格移住につながるよう、2地域居住についての可能性も研究・検討しながら事業推進を図っていく必要がある。

また、地域の活力を維持するためには担い手となる人材の確保が重要であり、地域外の人材を誘致し定住対策としての取り組む「地域おこし協力隊」の活用は有効である。これまで農業分野・チョウザメ研究・スポーツ振興・観光振興・高齢者支援などで採用し、任期満了後には、地域への定住に結びついている例もある。今後も各分野において制度を活用した新たな人材確保を図るため、募集内容や方法など検討しながら地域おこし協力隊を誘致されたい。

## ●恩根内基盤整備の推進

恩根内市街地活性化事業では、遊休施設の改修による市街地の環境整備が図られたことにより基盤整備事業は事業完了となった。

## (2) 観光資源を活かし誘客促進を図る

## ●魅力ある観光地づくりの推進

美深町の観光振興を担う観光協会のイベント事業や各種PR事業は、観光客を誘導し地域を活性化させるために必要な事業である。美深町観光大使事業では、観光大使による積極的な発信が行われているとともに、ツアーや交流事業の推進により大使を通じたPR効果や交流人口が増えている。まつり事業や広域観光の推進についても、地域間の資源をつなげ魅力ある観光振興が図られている。いずれの事業も美深の観光PRに役立つものであり、更なる情報発信と事業推進のため、観光協会への支援と将来に向けて新たな体制の構築についても検討を進められたい。

## (3) 交流人口の拡大を図る

## ●美深アウトドアスタイルの確立

青少年自然体験事業は、NPO法人びふかスポーツクラブが主体となり、美深の自然を活かした色々なアウトドア事業が展開され、活動の充実が図られている。

## ●エアリアル事業

現在、美深町内の選手は3名と少ないものの、大会開催や合宿受入れなどにより、町内外におけるエアリアル競技の認知度向上と美深町のPRが図られている。今後も、選手育成や指導者の確保、関係団体との協力による支援体制の充実を図る必要がある。

## ●地域間交流活動の推進

美深町出身者、美深町民との交流・親睦を通じた人づくり、札幌美深会や東京美深会などの更なる発展を支援するための住民組織である「美深ふるさと会」が平成24年

度に発会され、ふるさとツアーをはじめ交流活動を進めている。

ふるさと会員の高齢化や新たな人材の不足など大きな課題を抱えているが、引き続き町民の協力を得ながらふるさと会との交流を深めるとともに、若い世代をどう取り込んでいくのかなど、新たな会員の補強に向けた方策を模索されたい。

地域間交流活動では、姉妹町添田町と計画的な交流が進められているほか、スバル関係では平成 29 年度のスバル北海道美深試験場の整備拡張により、試験スタッフの訪問も増えており、SUBARU美深会とも連携しながら交流推進を図られたい。

産学官の連携では、チョウザメ事業の推進を契機に構築され、北海道大学の美深町をフィールドとした実習受け入れが行われている。当面はチョウザメ事業推進が中心となるが、まちづくりの視点や今後の人材確保など様々な分野での連携も模索しながら、町の活性化に向けて取り組みを強化されたい。

数値目標	基準値	目標値
観光客年間入込数	4 1. 1万人 【2014 年度】	4 2. 3万人
<b>R元 数値目標達成状況</b>	<b>4 3. 7万人</b>	<b>達成率 103. 3%</b>

基本目標 3

国の基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

若い世代の結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなえられる

(1)住みたいまちへの住環境整備

●快適な住まい環境の整備促進

町民が安心して快適に暮らすための住宅整備、商工業の魅力ある店舗づくりを促進する店舗改修等を支援し、住環境の整備・定住の促進・商工業活動の環境整備と建設産業の振興と雇用の安定が図られている。令和元年度からは、子育て世帯を対象とした支援も新設しており、制度の充実が図られている。

(2)教育環境の整備・充実

●未来の人づくりサポート事業

山村留学は、地域の特色ある教育活動として推進され、校舎の建て替えについても順調に進んでおり、町産材の活用や木育も取り入れながら進めている。

美深高等学校卒業生奨学金制度による経済的支援は、高校卒業後の進路を広く選択できる環境を整えることができ、安心して進学等に向けた学校生活を送ることができる魅力ある学校であることを広く PR することで、入学者の確保、大学等卒業後の U ターンにも効果があった。

こどもスポーツ未来基金事業は、選手に限らず指導者の活動支援にも活用されていることで、スポーツ活動の推進においても有効な制度となっている。町の補助に加え、継続的に民間団体や個人から寄付等を受けられる仕組みづくりが、事業の継続性・経済性における課題であり、財源創出に向けた協議・検討を進める必要がある。

(3)切れ目ない子育て支援

●健やかな子育ての支援

少子化が課題となっている中、妊娠、出産、育児を通して親と子が心身ともに健康な生活を送ることができるよう、母子保健対策の推進が重要である。国・道の施策に加えて町独自の施策が展開されており、安心して子育てができる環境づくりが推進されている。今後も、継続した取り組みが必要である。

不妊治療費は、子どもが欲しい夫婦にとっては、精神的にも経済的にも大変な負担であり、町の少子化対策として支援を継続していく必要がある。

乳幼児等医療費助成事業は、子育て支援の趣旨から中学生以下の子どもへの医療費の全額助成拡大を実施して経済的負担の軽減となっており、今後も、継続して実施していくことが適切であると考えられる。

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1. 36人 【2015年度】	1. 51人
R元 数値目標達成状況	1. 36人	達成率 90. 1%

## (1) 絆の強い活力あふれる地域の創出

## ●地域の元気づくり対策

自治会活動はまちづくりの基本となるものであり、地域における自治会活動を推進するための支援は、安全で住みよい地域づくりを進める上で必要である。また、地域の活動拠点である集会施設についても、自治会が指定管理者として管理することにより地域の自主性や独自性が発揮されている。

しかし、住民の高齢化や地域帰属意識の低下などによる役員の担い手不足は各自治会の共通課題であるとともに、小規模自治会では、住民減少による活動が停滞しているところもあることから、地域創生元気づくり交付金を活用した交流事業の推進や、地域計画の策定を通じ今後の自治会のあり方について議論されている。地域計画の未策定自治会においては早期に策定されるとともに、各自治会におけるコミュニティ活動推進のため、工夫を凝らした交付金事業の活用を期待したい。

## (2) 担い手となる多様な人材の育成

## ●ひとづくりの充実

まちづくりの中心となる人材育成の基礎づくりを目的とした「まちづくり人材育成研修事業」は、町職員と町内青年がグループになり参加するもので、今まで交流がなかった職場間での人材交流なども図られ、互いの考え方や相互の職場環境への理解が深まることから、これからのまちづくりを進めて行く上でたいへん有効な事業である。

令和元年度は事業の活用はないが、年によって増減はあるもののこれまで一定の事業活用は図られていることから、今後もより柔軟な運用を図る中で事業への参加周知を積極的に展開し、継続して推進していくべき事業である。

## (3) 快適で利便性の高い暮らし

## ●公共交通の確保維持と整備

仁宇布線デマンドバスは平成 24 年度から本格運行し、市街地フレンドバスは 25 年度から本格運行している。

事業運営に当たっては、住民にとって利便性の高い交通サービスを確立させていく必要があるため、協議会で利用状況や運行体制など確認しながら推進されている。また、農村部の公共交通空白地帯の対策については、吉野、斑溪、富岡、西紋地区で実証試験を経て、令和元年 7 月よりデマンド型乗合タクシーとして本格運行された。

全体的には、年度により利用実績にばらつきはあるものの、地域公共交通体系において必要不可欠なサービスであることから、公共交通活性化協議会の意見を参考としながら、引き続きサービスの維持、改善を進められたい。

恩根内バス路線は、美深町と名寄市の沿線住民が主に利用する公共交通機関であり、沿線住民の移動手段として欠かせないものとなっている。JRのダイヤ改正の影響もあり、利用者数は前年より増加していることから、今後も利用者の実態を確認しながら、経費の節減や運行方法等について事業者と協議していくことが必要である。

## ●安心できる地域保健・医療・福祉の確保

各種検診・予防保健対策は、疾病の早期発見、早期治療により、医療費の抑制、住民の健康を守る上で非常に重要である。国・道の事業に加えて、町独自の事業も実施

しており、充実した事業となっている。町民の健康の保持増進のため、今後とも受診率向上に向け、受診勧奨、啓発など継続した取り組みが必要である。

予防接種・結核検診等の業務は、個人の疾病罹患、重篤化を防ぎ、そのまん延を防止するために継続していく必要がある。

●**生きがいをもち、健やかで安心な暮らしができる環境づくり**

「びふかニューパブリック協議会」による高齢者の買い物の支援対策は、商工業者をはじめシルバー人材センター、商工会など多様な組織が参画し、宅配事業に対する必要性について共通理解を持ちながら事業推進を図っている。平成28年度からは、社会福祉協議会に委託しシルバー人材の活用により、スムーズな運営体制が図られている。令和元年度の登録者数は増加傾向にあり、引き続き、協議会で課題等を整理しながら、高齢者の快適な暮らしを支える事業として推進されたい。

高齢者等の世帯が地域で自立した生活を送る上で、冬期間の除雪サービス事業は必要な支援であり、高齢者は大変助かっている。今後も対象者の増加が想定される中、作業員等の担い手の確保対策が課題であるが、多様な委託先を検討しながら安定した事業運営に努められたい。

数値目標	基準値	目標値
地域計画策定自治会数	8自治会 【2015年(H27)当初】	17自治会
R元 数値目標達成状況	14自治会	達成率 82.4%



# 資 料 編

令和元年度まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価一覧

1 (基本目標1)		グループ	新・継	まちひとしごと創生推進会議による評価 (町民評価)	まちひとしごと創生推進本部による評価 (行政内部評価)
【国の基本目標① 地域における安定した雇用を創出する】 ◆まちの特性を活かした産業振興と魅力ある雇用の場の確保・創出、拡大					
事業No.	事務・事業名				
(1) 職業として選択できる魅力ある農業の実現					
●農業担い手の育成・確保					
2-1-3	222 新規就農者補助事業	農業	継続	A	A
2-1-3	223 担い手育成・確保対策事業	農業	継続	A	A
●付加価値向上に向けた6次産業化の推進					
5-2-2	507 地域活動活性化促進事業	企画	継続	B	B
2-1-2	217 農畜産物等販路拡大PR事業	農業	継続	B	B
2-1-2	216 農業振興センター管理運営事業	振興C	継続	B	B
(2) 魅力ある雇用環境の整備					
●チョウザメ養殖産業の振興					
2-4-1	261 チョウザメ振興事業(ハード)	企画	継続	B	B
2-4-1	264 チョウザメ振興事業(ソフト)	企画	継続	B	B
●建設産業等活性化の促進					
2-5-2	260 商工業担い手支援事業	企画	継続	B	B
●保健・医療・介護・福祉の人材確保					
4-1-2	408 地域医療・福祉体制整備事業	保健福祉	継続	A	B
(3) 創業支援、新産業の振興					
●商工業担い手の支援と地場産業創出					
2-5-2	260 商工業担い手支援事業	企画	継続	B	B
2-5-2	252 起業家育成支援事業	企画	継続	C	C
●地域活動の活性化促進					
5-2-2	507 地域活動活性化促進事業	企画	継続	B	B
(4) 卸売・小売業、建設業の活性化					
●商工業活動の支援					
2-3-1	239 商工会活動支援事業	企画	継続	B	B
2-3-1	241 中小企業支援事業	企画	継続	B	B
●林産業活性化推進事業					
2-2-1	234 林業経営強化事業	建設林務	継続	A	A
1-1-1	101 新エネルギー普及事業	企画	継続	B	B
2 (基本目標2)		グループ	新・継	まちひとしごと創生推進会議による評価 (町民評価)	まちひとしごと創生推進本部による評価 (行政内部評価)
【国の基本目標② 地域への新しいひとの流れをつくる】 ◆美しい自然環境、豊かな地域資源を活かし、新しい人の流れをつくる					
事業No.	事務・事業名				
(1) 移住定住を促進する					
●移住・定住対策の促進					
1-3-3	135 移住定住推進対策事業(旧ちょっと暮らし体験推進事業)	企画	継続	A	A
5-1-1	501 地域支援対策事業	企画	継続	B	B
●恩根内基盤整備の推進					
1-1-1	177 恩根内市街地活性化事業	水道住宅		-	-
(2) 観光資源を活かし誘客促進を図る					
●魅力ある観光地づくりの推進					
2-4-1	247 観光PRとイベント支援事業	企画	継続	B	B
2-4-1	249 魅力ある観光地づくり推進事業	企画	継続	B	B
(3) 交流人口の拡大を図る					
●美深アウトドアスタイルの確立					
3-4-2	327 青少年自然体験事業	教育	継続	A	B
●エアリアル推進事業					
3-6-1	335 エアリアル推進事業	教育	継続	B	B
●地域間交流活動の推進					
5-4-1	510 地域交流促進事業	企画	継続	B	B
5-4-3	512 ふるさと交流事業	企画	継続	B	B
5-4-1	529 産学官連携活性化事業	企画	継続	B	B

令和元年度まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価一覧

3 (基本目標3)		グループ	新・継	まちひとしごと創生推進会議による評価 (町民評価)	まちひとしごと創生推進本部による評価 (行政内部評価)
事業No.	事務・事業名				
(1) 住みたいまちへの環境整備					
●快適な住まい環境の整備促進					
2-3-2	259 快適な住まい環境と商工業振興事業	企画	継続	A	A
●少子高齢化に対応した住宅の整備					
1-3-2	134 公営住宅長寿命化事業	水道住宅	継続	B	B
(2) 環境教育の整備・充実					
●未来の人づくりサポート事業					
3-2-6	317 高等学校教育推進事業	教育	継続	A	A
3-6-1	343 こどもスポーツ未来基金事業	教育	継続	A	A
(3) 切れ目ない子育て支援					
●後継者育成・婚活等の総合支援					
2-1-3	227 農業後継者育成事業	農業委員会	継続	B	B
●健やかな子育ての支援					
4-1-1	406 母子保健対策事業	保健福祉	継続	A	B
4-2-1	412 子育て環境体制等整備事業	保健福祉	継続	A	B
4 (基本目標4)		グループ	新・継	まちひとしごと創生推進会議による評価 (町民評価)	まちひとしごと創生推進本部による評価 (行政内部評価)
事業No.	事務・事業名				
(1) 絆の強い活力あふれる地域の創出					
●地域の元気づくり対策					
5-2-1	506 自治会活動推進事業	企画	継続	B	B
(2) 担い手となる多様な人材の育成					
●ひとづくりの充実					
5-1-1	502 地域人材育成事業	企画	継続	B	B
(3) 快適で利便性の高い暮らし					
●公共交通の確保維持と整備					
1-2-1	119 公共交通活性化協議会交付金	企画	継続	B	B
1-2-1	120 地域公共交通運行事業	生活環境	継続	B	B
●安心できる地域保健・医療・福祉の確保					
4-1-1	401 各種検診・予防保健対策事業	保健福祉	継続	B	B
●生きがいをもち、健やかで安心な暮らしができる環境づくり					
4-3-4	434 高齢者等生活支援事業	保健福祉	継続	A	B
5-1-1	524 新しい公共事業交付金	企画	継続	A	A

# まち・ひと・しごと総合戦略 数値目標・KPI

市町村名 美深町

(年度)基準値	(年度)実績	(年度)数値目標	進捗率
---------	--------	----------	-----

※ 実績及び数値目標については、直近(最新)の数値を記載すること

## 【基本目標1 まちの特性を活かした産業振興と魅力ある雇用の場の確保・創出、拡大】

数値目標		単年	H26	1,677	R元	1,508	R元	1,727	87.3%
KPI	町内企業就労者数(人)	単年	H26	1,677	R元	1,508	R元	1,727	87.3%
	後継者への経営継承促進(件)	累計	H26	2	R元	18	R元	2	900.0%
	町外からの新規就農者受入(組)	累計	H26	1	R元	4	R元	6	66.7%
	新商品の開発、販売支援(件)	累計	H26	0	R元	0	R元	2	0.0%
	関連産業の新規雇用(人)	単年	H26	0	R元	1	R元	2	50.0%
	第2次産業従事者数の維持(人)	単年	H26	279	R元	283	R元	279	101.4%
	修学資金貸付事業を利用した新規町内就業(名)	単年	H26	0	R元	1	R元	3	33.3%
	新規開業(件)	単年	H26	3	R元	1	R元	4	25.0%
	事業継承(件)	単年	H26	4	R元	1	R元	1	100.0%
	異業種進出(件)	単年	H26	0	R元	0	R元	1	0.0%
	地域特産品の研究開発(件)	単年	H26	1	R元	1	R元	2	50.0%
	商工会員数の維持(人)	単年	H26	177	R元	170	R元	177	96.0%
	町内における町産材木材自給率(%)	単年	H26	—	R元	0	R元	50	0.0%

## 【基本目標2 美しい自然環境、豊かな地域資源を活かし、新しい人の流れをつくる】

数値目標		単年	H26	41.1	R元	43.7	R元	42.3	103.3%
KPI	観光客年間入込数(万人)	単年	H26	41.1	R元	43.7	R元	42.3	103.3%
	体験利用者の増加(組)	単年	H26	—	R元	10	R元	16	62.5%
	移住者増(件)	単年	H26	0	R元	2	R元	3	66.7%
	集落からの転居者抑制(組)	単年	H26	0	R元	0	R元	1	0.0%
	集落への移住者(組)	単年	H26	0	R元	0	R元	1	0.0%
	魅力ある観光地づくりの推進(%)	単年	H26	100	R元	103	R元	103	100.0%
	子供の自然体験活動人数(人)	単年	H26	22	R元	60	R元	100	60.0%
	交流施設利用人数(人)	単年	H26	—	R元	259	R元	200	129.5%
	交流人口(来町者)人数(人)	単年	H26	1,612	R元	1,167	R元	1,300	89.8%
	エアリアルチーム登録数(人)	単年	H26	17	R元	11	R元	15	73.3%
	全日本指定強化選手(人)	単年	H26	4	R元	2	R元	3	66.7%
	交流人口増加(人)	単年	H26	114	R元	84	R元	100	84.0%

## 【基本目標3 若い世代の結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなえられる】

数値目標		単年	H26	1.36	R元	1.36	R元	1.51	90.1%
KPI	合計特殊出生率(人)	単年	H26	1.36	R元	1.36	R元	1.51	90.1%
	住宅新築の促進(戸)	単年	H26	4	R元	4	R元	10	40.0%
	町有住宅の改修整備(戸)	単年	H26	0	R元	0	R元	4	0.0%
	山村留学生(人)	単年	H26	15	R元	13	R元	17	76.5%
	大学等卒業後のUターン(人)	単年	H26	0	R元	2	R元	2	100.0%
	スポーツ大会上位入賞(件)	単年	H26	17	R元	22	R元	15	146.7%
	成婚者数(組)	単年	H26	1	R元	0	R元	5	0.0%
妊産婦、乳幼児の検診受診率(%)	単年	H26	98.9	R元	92.8	R元	100	92.8%	

## 【基本目標4 安全安心で快適な生活を守り、絆の強い地域をつくる】

数値目標		累計	H26	8	R元	14	R元	17	82.4%
KPI	地域計画策定自治会数(自治会)	累計	H26	8	R元	14	R元	17	82.4%
	地域計画の策定自治会数(自治会)	累計	H26	8	R元	14	R元	17	82.4%
	新規起業数(件)	単年	H26	0	R元	0	R元	1	0.0%
	町内公共交通の利用者数増(人)	単年	H26	8,940	R元	6,376	R元	7,000	91.1%
	特定検診受診率(国保)(%)	単年	H26	51.5	R元	44.5	R元	60	74.2%
	恩根内診療所年間延べ利用(名)	単年	H26	184	R元	137	R元	180	76.1%
	除雪サービス:支援必要世帯への支持率(%)	単年	H26	100	R元	100	R元	100	100.0%
	買い物支援による外出頻度の向上(人)	単年	H26	387	R元	854	R元	1,200	71.2%